



2020

大幸グループ CSR 報告書

持続可能な社会をみつめて
事業活動を継続し、生命を守る



CSRを活用し、
ESDを広げよう！

4 質の高い教育を
みんなに

当グループのCSR報告書を教材に、持続可能な開発のための教育（ESD）をスタート。
国連のSDGs4.7 達成に貢献します。

【お問い合わせ先】
大幸グループ CSR 事務局
〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

■携帯電話からのアクセス
e-mail: sea-mew@daiko-group.com
右のバーコードを対応端末で読みとっていただければ、
直接サイトにアクセスできます。
<http://www.daiko-group.com/>



弊社は暴力団等反社会的勢力との取引は一切行いません（ホームページ掲載）

2020.12.1000

業界のトップランナーとして 大幸グループは資源リサイクルの新たな時代を 切り拓いていきます



高品質を担保する生産管理と設備の増強 で製造業としての供給責任を果たす

「資源循環型社会の実現に向けて、大幸グループは業界のトップランナーとして業界のみならず国や行政を巻き込んで取り組んでいく」。2013年の本誌『大幸グループCSR報告書』発刊以来、私は一貫してその決意を語ってきました。そして今夏、環境省の英断で「建設汚泥処理物等の有価物該当性に関する取扱いについて（通知）」が発出されました。この通知は、2005年の環境省通知「建設汚泥処理物の廃棄物該当性の判断指針について」を発展させ、「建設汚泥やコンクリート塊に中間処理を加え当該建設汚泥処理物等が製造された時点において有価物として取り扱うことが適当である」とした画期的なものです。この通知を受けて、当グループはどのように変わっていかねばいけないかをお話します。

大幸グループは1990年代から様々なリサイクル製品を開発・製造し、製品の品質の良さと高く評価されてきました。近年では資源の「創り手」として処理業から製造業への転換を推進しています。今回の通知により、対外的にも製造業者として認知され、製造業者としての責務がより一層問われることとなります。

現在の主力製品である流動化処理土「ポリソイル」では、施工も含めた一気通貫のサービスを提供し、他社にはない高品質の製品と工事がお客から「さすが大幸」との声をいただいています。通知によって今後動き出す「ハイブリッドソイル」も、培ってきた生産技術と品質管理でお客様の期待に応える高品質の製品を提供することは当然です。その上で、国土強靱化の工事などで使用されることから、大量供給ができる体制を構築する必要があります。当グループでは、堺プラントの設備を大幅にリニューアルして生産能力の増強を図ると共に、環境負荷が軽減できる船舶での他府県への輸送を計画し、製造業者としての供給責任に役立てていきます。資源の「創り手」として、大幸グループが真価を発揮する時代がいよいよやってきます。

ウイズコロナの時代にも社員と地域の皆様が 安心して暮らせる未来を築いていく

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大で経済情勢が一変し、時代の大きな転換点を迎えています。先行き不透明感が強まっていますが、大幸グループの理念は揺るぎありません。それは、社員を守り、地域を守り、すばらしい地球環境を未来に残していくことです。

企業理念

私達は「地球を大切に」という合い言葉のもとに地球環境時代にふさわしい企業をめざしています。リサイクル技術の開発など、産業廃棄物を地球にやさしく還す方法を常に追い求め、この大切な地球環境をすばらしい状態で未来に残したいと心から願う人間の集まりです。

そのために「私たちが今できることは何か」「しなければならないことは何か」を考えて実行してきました。

2019年12月にはBCP（事業継続計画）の中核施設となる「大幸グループ津波避難ビル兼車庫センター」（以下「避難ビル」）が完成しました。いつ発生するか分からない大地震や津波、激甚化している台風や洪水に備えた「避難ビル」は、ニュートラムの車窓からもよく見え、当グループの取り組みを象徴するビルになっています。地域や行政の皆様からも期待され「これで安心できます」とよく声を掛けられます。

新型コロナ対策では、早期に専任チームを立ち上げ、専門家の助言も得ながら「どうしたら社員の安全を守れるか」を考え、万全の対策を講じています。また、現状では問題はありますが、万が一コロナ禍で業績が低迷しても社員の雇用を守るよう資金調達にも余裕を持たせて準備をしてきました。



社員を守り、地域を守り、地球環境を守るには、SDGs（持続可能な開発目標）を活用したCSR（企業の社会的責任）活動がますます重要になってきます。中でも「資源循環型社会を実現する」ことは、私たちの本業を通じたCSR活動の中核になります。

その実現のためには、国や行政に対して私たちの業界を正しく理解してもらえるように今後も働き掛けなければいけませんし、私たち自身もこれまで以上に襟を正して事業に邁進しなければなりません。

大幸グループは業界のトップランナーとしてCSR活動に率先して取り組み、次世代を担う幹部役員らと力を合わせて、社員と地域の皆様が安全で安心して暮らしていける未来を築いていきます。どうか一層のご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



次世代を担う幹部役員と共に

大幸工業株式会社 代表取締役
大阪ベントナイト事業協同組合 代表理事

浜野 廣美

製造業としての責任を果たし、 持続可能な社会を構築

循環型社会の形成に向けて、 安全・確実にリサイクル品を製造

2005年7月の環境省通知をさらに発展させた、2020年7月の環境省通知を受け、「ハイブリッドソイル」の製造がスタートします。ハイブリッドソイルとは、建設汚泥処理土と再生砕石を混合して作る、『廃棄物卒業の認証』を受けたリサイクル・複合機能商品です。宅地造成などに使用する盛土用と、スーパー堤防などに利用する難透水性用に分かれていますが、いずれも厳格な品質規格や製造管理、製造者の基準が定められています。大阪ベントナイト事業協同組合では、ハイスペックな製造体制づくりに率先して取り組み、通知発出後まもなく堺プラント改修に着手、12月中旬にハイブリッドソイルの原料となる建設汚泥処理土の製造ラインが完成しました。

従来のパドルミキサー型と比べ層の高速回転を実現した混合ミキサーをはじめ、最新式の磁選機、回転式異物除去機、振動篩機を備え、大幅な製造能力アップが可能となります。とりわけ集塵対策には注力し、



大幸工業株式会社 専務取締役
大阪ベントナイト事業協同組合 専務理事 **浜野 雅浩**

処理量 1200 m³/min の大型集塵機 2 機のほか、建屋内に局所集塵機を 2 機設置。また、建屋外のベルトコンベヤーについても FRP 粉塵対策カバーを設置するなど、周辺環境に配慮した製造体制を整えています。



混合ミキサー内部

混合ミキサー

●環境省通知（平成 17 年 7 月通知）

環境省通知（平成 17 年 7 月通知）では「建設汚泥処理物については、建設資材として用いられる場合であっても、（中略）競争する材料である土砂に対して現状では市場における競争力がないこと等から、あらかじめその具体的な用途が定まっておリ再生利用先が確保されていない場合は、（中略）その客観的な性状だけからただちに有価物として判断することはできない。」としている。

環境省通知「建設汚泥処理物の廃棄物該当性の判断指針について」
平成 17 年 7 月 25 日 環廃産発第 050725002 号
<http://www.env.go.jp/hourei/11/000096.html>

再生土の廃棄物該当性

「具体的な用途と再生利用先が確保（現地で利用された時点で廃棄物を卒業）されていなければ廃棄物」

●環境省通知（令和 2 年 7 月通知）

独立・中立的な第三者が、透明性及び客観性をもって認証する場合も、建設汚泥やコンクリート塊に中間処理を加えて当該建設汚泥処理物等が建設資材等として製造された時点において有価物として取り扱うことが適当である。

<https://www.env.go.jp/hourei/add/k096.pdf>

Topics

対談：「資源リサイクル新時代、開幕への第一歩に向けて
～建設汚泥等再生品の製造時における有価物化について～」
が開催されました

2020 年度版環境省「通知」発出の翌月にあたる 8 月（公社）全国産業資源循環連合会 理事／建設廃棄物部会 部会長の浜野 廣美（大幸グループ代表）と、同連合会「建設汚泥再生品等の利用促進に関する検討会」委員長を務められた勝見武氏（京都大学大学院地球環境学教授）による対談が開かれました。

この内容を冊子にまとめ、大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会（KTK）にて発行、配布しています。

◎問い合わせ／KTK 事務局：TEL06-6686-0003



人と環境に優しい職場づくりに 今後も力を注いでいきます

日々の業務においては、現場やプラントへ、できるだけ足を運んで、顧客の皆様をはじめ、従業員や協力会社のスタッフ、地域の方々など、ステークホルダーの皆様との直接的な対話を心がけ、人間や環境に優しい職場づくりに力を入れていきたいと考えています。今後もハイブリッドソイルを含めた商品の製造と販売、適正処理の技術開発と受け入れ能力拡大を図り、安全

かつ確実に業務を遂行して、顧客の皆さまの信頼と期待にお応えしてまいります。

また、すべてのステークホルダーを尊重し、皆様のご意見を大切にして、よりよき信頼関係の構築に努めてまいります。何卒、ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大型集塵機



回転式異物除去機

災害や感染症から生命を守る対策と 経済活動維持の両輪で未来へ

従業員と地域の皆様の生命を守る、 新たな時代の構築を目指して

様々なステークホルダーの皆様のご協力を得て、2019年12月に津波避難ビル兼車輻センターが完成しました。センターで勤務する運輸部従業員の大多数が若い人材で構成され、まだ至らない部分も少なくありません。しかし、その若い意欲と提案力を活かし、センター責任者として着実に前進していく所存です。

コロナ禍では、グループ全体で密を防ぐ空間確保、アクリル板の設置といった多様な対策を早期に実施し、業界のモデルケースとなりました。従業員の家族やその勤務先に感染の疑いがあれば休業補償のうえ2週間、自宅待機を要請。同業者から「やりすぎ」と言われるほど周到に取り組み、状況に応じて少しずつ形を変えながら感染対策を続けています。

また、コロナ対策をひとつの契機と捉え、配車システムの電子化を推進しています。専門知識を持つ従業員がiPadやクラウドを利用し、在宅でも配車



大幸工業株式会社 取締役 管理本部長 浜野 真季
大阪イベントナイト事業協同組合 監事

指示ができるようになれば、顧客サービスの向上と業務効率化が飛躍的に進展します。

先の見えない状況下、感染・防災対策と、事業継続による経済活動を両輪とし、細心かつ力強く事業を進め、臨機応変に攻めの姿勢を持って歩んでまいります。



車輻センターのスタッフと共に

ウイズコロナに対応した フレキシブルな職場環境の実現

ウイズコロナの時代に対応する地域貢献、職場環境づくりにおいても、早急な対策を心掛けてきました。防災訓練では参加者が少数でも効果を上げられるよう、大型車両のフロアー移動を実践。課題を明確化することで従業員の意識が高まり、タスクの解決につながりました。

地域の寄せ植え教室は「今年も何とか開いてほしい」という住民の皆様の声にお応えし、空間確保など対策を講じたうえで開催しました。このとき、感染症予防に関するオンライン講習会を併催し、規模こそ縮小しましたが内容的には例年以上に充実した催しとなりました。

また、柔軟な勤務体制を取り入れ在宅勤務、男性の育児休暇の取得を促進。車輻センターには、快適で風

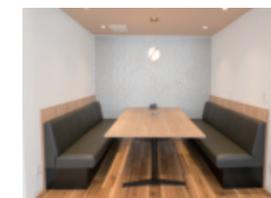


休憩室での打ち合わせ

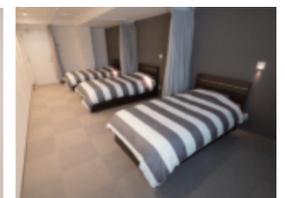
通しのよい職場環境づくりのためにカフェタイプの休憩室を整え、ドライバーの万全な体調管理に配慮してリラクゼーション型の仮眠室を設置しました。今後も環境と人に優しい職場改革に取り組み、SDGsへの貢献を目指して歩んでまいります。何卒、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



司会を務める地域寄せ植え教室



快適なカフェタイプの休憩室



適切な体調管理のための仮眠室

国連SDGs(持続可能な開発目標)とは

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)は、より良い未来を実現するために、今後15年をかけて極度の貧困、不平等・不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。この計画が「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」です。SDGsは、ミレニアム開発目標で十分に手を打てなかった課題に加え、Rio+20で議論された深刻化する環境課題など17の目標と169のターゲットに全世界が取り組むことによって「誰も取り残されない」世界を実現しようという壮大なチャレンジであり、企業や個人にも達成に向けて努めるよう期待されています。



環境・社会・地域への貢献に向け 仲間と共に新たな時代を築く

一人ひとりが、社会貢献への高い意識を携え、未来を見通す先進性、開拓精神、向上心をもって歩む大幸グループ。ステークホルダーとの協調、協栄を念頭に置きつつ、自らの個性を生かし、ウイズコロナ、アフターコロナの時代を切り拓いていきます。

購買部として、堺プラントの工場長、専門業者の方々と協力しながら汚泥リサイクルプラントの製造機器を導入、稼働した時は循環型社会構築に役立つプロジェクトに携わっている醍醐味を実感しました。労務の分野では「大幸グループに入社して良かった」と思われる環境づくりに努めています。(平成 26 年入社)

総務・購買・運輸部 統括課長
森田 直樹



受注と車両手配を行う部署を管理しています。顧客のご要望と作業内容をよく聞き、各ドライバーの状況や個性にも配慮して、綿密に予定を組む必要があります。今後導入する電子システムを上手に活用したいですね。車輛センターは地域の「津波避難ビル」でもあり、誇りと責任を感じています。(平成 10 年入社)

運輸部 運行管理課 主任
土井 良介



排出事業者様、仲介事業者様への営業を担当し、書類作成から現場の確認・指導まで広範な業務に携わっています。環境保全を大切にしながら、顧客の皆様と共に、社会・経済活動に貢献できる仕事だと思っています。

今後もより良い社会を次世代に引き継げるよう努力していきます。(平成 22 年入社)

営業部 課長
岩淵 一之



ドライバーから運行管理の職種に移って 1 年余り。できるだけ無駄を省いて効率よく仕事をまわし、ドライバーに気持ちよく走ってもらうことを心掛けています。当社には表彰制度があり頑張れば評価されて励みになるし、人間ドックの受診制度も健康への意識向上につながるのありがたいです。(平成 28 年入社)

運輸部 運行管理課
加井 彰人



流動化処理土の製造を手掛けており、チーム全体の進捗管理がスムーズに進み、計画通り生産できると手応えを感じます。12 月に始まる再生土の製造は、自分や部下にとって初めての経験なので、一丸となり情報共有しながら取り組んでいきたいです。今、良い緊張感とワクワク感を覚えています。(平成 26 年入社)

堺プラント 主任
小路 優



働きやすい職場環境は、報酬にもまして大事なものです。リーダーとして、会社の上層部とドライバーのパイプ役を担い、より良い環境を築きたいと思っています。建築現場の仕事が終了して、そこに建物が完成すると、息子たちに「自分が携わった」と自慢しています。日々、達成感を覚える仕事です。(平成 27 年入社)

運輸部 プロアーチームリーダー
大倉 隆伸



大型の装置、機器、システムを用いて産業廃棄物を無害化しています。一般の目に触れることはありませんが、必要不可欠な仕事として社会の基盤を支えています。

数年前、会社の支援を受け移動式クレーンの免許を取得。今後も、専門性を高め万一のトラブルにも即時対応できるプロを目指します。(平成 26 年入社)

南港処理センター 主任
今村 政和



入社後、各プラントで研修した内容を徐々に理解し、事業の流れが見えてきました。流動化処理土の搬入や、廃棄物の搬入を通して環境に貢献できる業務だと思います。先輩の助言が親切で居心地いい職場なので、順繰りで後輩にも親切にしたいし、一人一台制なので担当する車両への愛着も強いです。(平成 30 年入社)

運輸部 ドライバー
勝山 広史



従業員の雇用を守り、地域・環境を守る グループを挙げての感染拡大防止策



新型コロナウイルスの感染拡大により、新たな社会的責任が求められ、これまでにない仕組みづくりが必要となっています。大幸グループでは、従業員の雇用継続をはじめとし、事業活動全般において即時に感染拡大防止策を講じてきました。今後も社会状況に応じた取り組みを継続していきます。

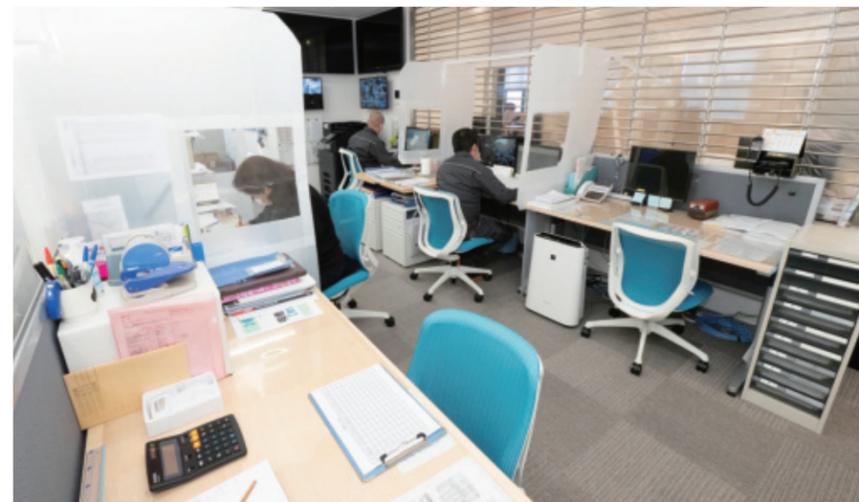
大幸工業株式会社 本社 / 車輛センター

今年度初めにコロナ対策関連の通達・掲示を発信、本社事務職のシフトを2チーム制とし、時間差出勤を導入すると同時にマイカー通勤枠を拡充しました。従業員の周囲に発熱など感染の疑いがあれば休業補償のうえ2週間、自宅待機を要請し、出勤者にはマスク着用、朝夕の検温を義務付け、マスク不足時には社内販売で数量を確保しました。

密を防ぐ空間確保、事務所内のアクリル板等による仕切り設置なども早期に実施。また、営業職など一部にテレワーク制度を採用して、リモート会議を導入し、書類トレイやコピー機器を事務所入口に移動するなどの工夫を施しています。そのほか、出勤者の英気・体力の保持に向け、春期に2度の昼食(弁当)配布を行いました。



パーティションを設けた事務所



消毒用アルコールとウイルス除去器



早期に掲示物を設置

大阪ベントナイト事業協同組合 各プラント

今年度に入ってすぐ経営陣によるコロナ対策緊急会議を開き、顧客の出入りが多い本社、車輛センターに続いて各工場で下記項目に取り組んでいます。

- ① 朝礼時、各プラントにおいて従業員全員の体温を測定し、37度を超える場合は帰宅を要請する。
- ② 休憩室に入室する場合は、手洗い消毒などを心掛ける。
- ③ 事務所、計量室に仕切りを導入。従業員は互いに距離を取って感染予防を行う。
- ④ 密室に入る場合まず換気し、空間除菌やアルコール消毒を行う。
- ⑤ 昼食の際、休憩時間をずらして同時に3名を超えないように管理する。
- ⑥ 喫煙所の使用は1名までとする



就業前に行う手の消毒



仕切板を設けたプラント事務所

オンライン研修の推進

新型コロナウイルスへの対応として、国や自治体でもデジタル改革、オンライン教育の推進が課題となっています。大幸グループでは、テレワークやリモート会議のほか、オンライン研修(従業員教育)の導入にも積極的に取り組んでいます。

<学生・社会人の同時オンライン教育イベントに参加>

車輛センターの大型モニターを用い、「学生授業と社会人講習会の同時開催〈2020/10/29〉」(持続可能な地球のための教育・実行委員会主催)にオンラインで参加しました。長崎大学・大嶺聖教授の「環境修復工学」受講生やオブザーバーと共に、環境省切川卓也課長補佐による講演「ウィズコロナ・アフターコロナ時代におけるSDGsと『地域循環共生圏』」を受講。終了後に従業員同士で意見を交換しました。



車輛センターでのオンライン研修

従業員と地域の皆さまを守る 津波避難ビル兼車輛センター 始動！



風水害時の事業継続・早期復旧に対応し、地域防災に貢献するBCP（事業継続計画）拠点「津波避難ビル兼車輛センター（以下、「避難ビル）」が2019年12月に完成し、自治体・地域との協定締結を経て供用を開始しました。20年秋の第3回防災訓練では、今後の課題を分析、顕在化して具体的対策を作成。防災拠点としての備えを強化しています。

南海トラフ巨大地震、大和川の氾濫などにより、津波や浸水の発生が予想される地域に建つ「避難ビル」。住之江区、さざんか平林協議会、大幸工業株式会社の三者協定により「津波避難ビル（指定緊急避難場所）」に登録されています。緊急避難時は、車両用スロープを利用することで、車イスや、ベビーカーの利用者などもスムーズな移動が可能です。



大幸工業株式会社
津波避難ビル
〒594-0292 大阪府住之江区
大幸ビル 24階
建築基準法と各自治体の
設定基準を満たした建物に
与えられる津波避難ビル表示



津波時には地上6m以上が避難場所となる立体駐車場や事務所棟



避難時のバリアフリー化を実現するスロープ



立体駐車場棟の屋上



事務所棟の3階に設けたカフェタイプの休憩スペース



事務所棟2階の会議室（避難スペース）



同3階のレセプションルーム



KTK 防災対策実行委員会 「第3回防災訓練」開催 専門家を招聘し、 車両移動訓練と反省会を実施

「KTK 防災対策実行委員会」（委員長＝乾 徹 大阪大学教授）は、2020年10月5日、第3回防災訓練を実施しました。コロナ禍の今回は、危機管理やBCPに詳しい専門家の指導を仰ぎ、少人数で開催。詳しい訓練内容を開示しないアドリブ形式で、車輛センター1階の大型車両を2階へと移動しました。

開催に当たり、浜野廣美代表理事が「車両は雇用・事業の継続のために不可欠なもの。緊急時に地域の避難者400人を受け入れる避難ビルとして有効な訓練を」と指示。その後、南海トラフ地震が発生した設定で訓練しました。

訓練終了後に乾委員長以下、参加者全員が約1時間にわたって意見を交換し、課題を精査しました。乾委員長は「1階の大型車両5台を約7分というハイペースで移動できた。走行中の車両への指示、発電機の操作などについて更に精度を高め、今後も防災対策に努めてほしい」と指導。この日の検討事項をまとめ、緊急マニュアルの充実、対策強化に取り組んでいます。

非常食・飲料水、非常用トイレ等を備蓄



自治体支給の備蓄物資に加え、大幸グループ独自に非常食や飲料水を確保し、浸水が長引いた場合に備えています。



1. 鍵箱を取りに行く



4. 駐車場棟の屋上へ



2. 車両キーを配分



5. 駐車位置を誘導



3. 車両移動の号令



6. 安全に駐車し、集合



訓練後の反省会で具体的に課題を検討

地域に溶け込み、共に学び、 持続可能な社会を次世代へ

再生品の製造による資源循環システムの構築、適正な廃棄物処理により、持続可能な社会づくりを目指す大幸グループ。その事業は地域の理解や信頼を基盤とするもので、長年にわたり地域清掃、環境学習など地道な地域貢献活動に努めてきました。今後も、持続可能な開発や自然との調和に寄与する活動を、関連企業や行政、地域社会と共に推し進めていきます。



再生土を用いた寄せ植え教室とオンライン感染予防対策講習会

大幸グループでは2011年(平成23年)から継続的に、住之江区の平林福祉会館において、エコリサイクル土を使用した寄せ植え教室を開催しています。コロナ禍の2020年秋には、会場内でメディカルティーツリーを使った天然抗菌蒸留水を製造し、感染症予防に関するオンライン講習会と、寄せ植え教室を同時開催しました。

メディカルティーツリーは、高い抗菌作用のある「テルペネン4オール」という香り成分を含有することから、吹き出物など皮膚のトラブル治療に用いられ、また、院内感染の原因となる菌を殺菌する効果でも知られています。今回は、大幸環境グループ 和泉リサイクル環境公園からメディカルティーツリーの提供と、応援を受けて協働開催されました。



コロナ対策に配慮しての開催。地域の皆さまから「毎回、多くの人々が楽しみにしています」「地元企業の方々と気軽に話せる機会です」との声が聞かれました



天然抗菌蒸留水を抽出

メディカルティーツリーの栽培

メディカルティーツリーに含まれる芳香成分「テルペネン4オール」は、高い抗菌作用を有しており、SARS(重症急性呼吸器症候群)の世界的流行時に台湾で使用されました。今回使用されたメディカルティーツリーは大幸環境グループの環境公園内で栽培されたものですが、大幸グループの津波避難ビル兼車輦センターの敷地内でも栽培を始めています。



車輦センターの壁際で栽培



司会を務める大幸グループ・浜野取締役



左は(大幸環境株式会社)和泉リサイクル環境公園を管理する大野氏

安全・快適で美しい街づくり KTK 道路清掃美化キャンペーン

大幸グループが中心となって取り組んでいる KTK 道路清掃美化キャンペーン(環境対策協議会主催)は、安全で持続可能なまちづくりに貢献すると共に、子どもたちを含む地域全体の生涯学習の場となっています。

2004年(平成16年)にスタートし、年々参加者が増加。現在では、大幸工業(株)とKTK会員企業50社の社員・家族に加え、地元町会の方々100名以上、自治体各部署、その他賛同者の計400名超が集まる大規模な地域イベントに成長しました。1回あたりのゴミの収集量は、2tトラック10台分ののぼります。



第1回: 2004年7月25日 参加者100名

■参加人数の変遷

第1回	2004年	100名
第3回	2006年	160名
第5回	2008年	264名
第7回	2010年	270名
第9回	2012年	410名
第11回	2014年	365名
第13回	2016年	433名
第15回	2018年	423名



第15回: 2018年10月14日 参加者423名

※2020年はコロナ禍により、開催を自粛しました。

コロナ禍のなか小さな交流を育んだ 「光る泥だんご」

大幸グループが開催した「光る泥だんご」を用いる出前授業は、2019年11月までに20回以上を数え、受講者は延べ500名以上にのぼります。2019年9月26日、大阪市立新北島中学校（住之江区）の生徒らが、マレーシアの小学生に向けてプレゼント用の「光る泥だんご」（準備資材）を制作し、翌年1月22日に現地で光る泥だんご教室が開催されました。その後、マレーシアの小学生から大幸工業と新北島中学校に、

感謝状と添え書きが贈られました。コロナ禍により、感謝状が渡されたのは半年近く遅れましたが、500km離れた、行ったこともない国同士の子供たちが互いを思いやる、小さな交流が生まれました。

この社会貢献事業は、大幸工業株式会社、オフィスメーカー株式会社 N.S Vision Marketing Sdn.Bhd によって運営されました。

【光る泥だんご教室】

感性を育み、ものづくりを学び、人間関係を育む、日本の泥だんご。独自開発の「光る泥だんご」は誰もが確実に短時間で、癒し光る感動と快感が得られ、その工程を何度も再現できる学習教材です。そのため、防災教育や廃棄物再生利用といった地盤環境学習などに活用できます。



感謝状の添え書きを書き終えたマレーシアの小学生たち



マレーシアでの教室の様子



得意げに「光る泥だんご」を作る小学生



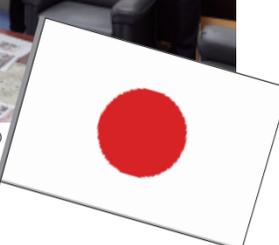
泥だんごを手にした新北島中学の生徒と大幸グループ浜野取締役



プレゼント用の「光る泥だんご」を制作



感謝状の添え書きを受け取る新北島中学の生徒と教員、大幸グループ代表・浜野廣美



職場体験学習

地域の中学生が、持続可能な経済活動を促進する知識及び技能、質の高い技術教育・職業教育について学び、将来の社会的自立を促すため、2014年より大阪市立新北島中学校の職場体験学習を受け入れています。

昨年度参加した中学生は、車輛センターで保有するベッセル車（29台）とダンプ車（4台）について学び、水密性の高いベッセル車は運転の振動で廃棄物の水分が分離してもこぼれないことを確認。また、大型車の死角を学び安全につなげる試乗体験、事務体験などを行い、2日間の日程を終えました。



インターンシップ

未来を担う学生に、大幸グループが取り組む豊かで安全なまちづくりと、環境保全への思いを理解してもらおう機会として、また、実地研修を通じ、技術的・職業的スキルや、働きがいのある職場環境、持続可能な経済成長について学び、考えていただくため、例年インターンシップを受け入れています。

昨年度、9日間の日程を終えた、近畿大学経営学部キャリアマネジメント学科1年の川端夏葵さんは、「本社・車輛センターの事務だけでなく、各プラントもめぐり、品質を保持する努力や、廃棄物処理に関する規

定などを学んだ。本社は私の自宅に近く、環境や地域について考え、将来に活かす貴重な時間となった」と話しています。



盆踊り大会

大幸グループでは、地域文化および芸能文化の伝承と継続、地域交流を目的に、住之江区のさざんか平林協議会主催で毎年開催される盆踊り大会に参加。夜店の運営にも協力し、かき氷や焼きそば屋台のスタッフとして活動し、地域イベントを盛り上げています。



※2020年はコロナ禍により、開催を自粛しました。



健康的で働きがいのある、安全な職場環境づくり

環境・社会貢献につながる持続可能な成長に向け、従業員が意欲と向上心を持って働ける環境づくりを目指しています。特に、男性の育児促進や在宅勤務といった、多様な状況や生活スタイルを尊重した勤務体制、余暇を楽しみ生産性向上を目指す働き方改革に取り組んでいます。また、従業員の誰もがモチベーションを高め、能力を伸ばし、安全に働ける社内環境づくりのため、公平公正な評価・表彰制度、教育・福祉制度を設置。さらに、オンライン講習会や定期刊行物の発行を通じて、情報共有と組織力強化を図っています。

グループ内表彰

大幸グループでは、社会と環境に貢献できる、働きがいのある職場づくりを目指して、優良ドライバー表彰制度を設置。2017（平成 29）年から「優良従業員表彰」、また 2018（平成 30）年より、洗車に特別な努力を注いだ「ぴか

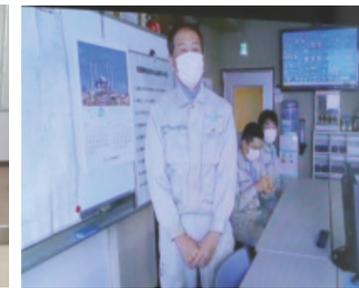
ぴか賞表彰」なども実施しています。

そのほか、永年勤続表彰（10年・20年・30年）の制度を設け、定年退職者に対しては、親睦会より感謝の気持ちを込めて記念品を贈呈。応募コンクールによる安全標語表彰も行っています。

勤続 10 年表彰



山田 泰彦 岩淵 一之



阪元 正敬（リモート）



中戸 久男 山 真利子

ぴかぴか賞



新宅 正治 大手山 徳洋
※大手山 勇太（欠席）

優良乗務員表彰



左から 大幸工業(株) 高元 潤 榊 聖一 勝山 広史
西飲興業(株) 野島 泰 (代理: 井上専務)
※(株)デンコー 田中 栄二 (欠席)

安全標語表彰



最優秀賞 宮本 大智
優秀賞 渡辺 旭
安全標語「SDGs 災害防止は団結で元気に声かけ 再確認」

住之江区子ども会育成連合協議会 体育事業後援

地域の子どもの健全なライフスタイル育成、平等で平和な文化の推進を目指し、住之江区子ども会育成連合協議会体育事業に賛同、後援を行っています。同事業は各種目で活発に活動が続けられており、大幸グループもソフトボール大会、キックベースボール大会の開会式などに出席し、子どもたちの健康増進と成長を応援しています



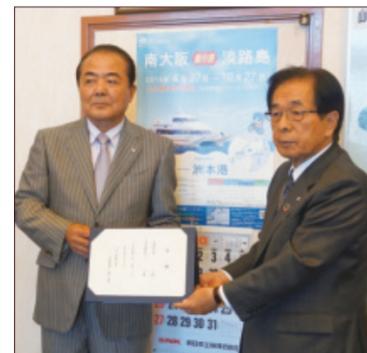
学生と幼児の食育活動に向けた改良土寄付に感謝状

相愛大学人間発達学部へ、2017年に改良土の寄付を行いました。改良土は再利用を目指して製造されており、教師を目指す学生と地元の子どもたちに、野菜を栽培する畑の用土として、現在も使用されています。このプログラムは、学生と子供が共に土に触れ、野菜を育て、収穫して食べる、という一連の流れの中で、食育について学ぶもの。プログラムへの理解と改良土寄付に対し、2018年3月、学校法人相愛学園より感謝状を受領しました。



岬町の教育振興に向け救急用品を寄贈し、感謝状を受領

泉南郡岬町への事務所開設に伴い、当地のスポーツ・文化活動に役立つ外傷用救急箱と応急処置救急セットを寄贈。2019年10月、田代堯町長より「教育振興に寄与されるとともに、生涯教育の新興に多大な貢献をなした」との理由で感謝状を受けました。



女性の活躍推進、雇用継続に向け、仕事と家庭生活の両立を支援する育児・介護休暇制度を設置し、従業員が安心して就業できる環境の構築を図っています。また、男性の育児参加の促進に向けて制度の掲示や声掛けといった啓蒙活動を展開し、2020年度は男性従業員5人が育児休暇を取得しました。また、新生児の育児、高齢者の介護、病床にある家族の看護等、個別にヒアリングを実施し、正当な理由に基づき、所定時間外労働の免除、深夜業務の制限、時間短縮その他の支援を行っています。



藤澤 隼人 (運輸部ドライバー)

「第一子の誕生後に
休暇を取って、育児を
一通り経験でき、妻も
喜んでくれました」



金永 祐樹 (運輸部ドライバー)

「1人目の慣れない子育て
で、妻も大変ななか、
僕も育児休暇で一緒に
育児できてよかったです」



藤原 佑一 (南港処理センター)

「妻の出産入院期間に
育児休暇を取得。
上の子を世話するこ
とができ助かりました」



年金支給開始年齢の引き上げ、社会的な労働力不足を鑑み高齢従業員の戦力化を図るため、定年後の単年契約による再雇用に加え、65歳以降の継続雇用延長を実施しています。定年後の人材は、技術と知識を伝承し、事業を支える大きな力であり、

従業員それぞれの希望を考慮しながら再契約を更新。各自の経験や能力・役割に応じた活躍を期待して、後進へ技能・知識・マンパワーを引き継ぐ基盤づくりに努めています。

<継続雇用延長 (再々雇用) 制度を利用し各部署で活躍>



音揃 孝幸 (技術開発部)
専門知識と技術を活用。
後進育成も行う



松永千秋 (運輸部)
長年運転手を務め、今は軽油・
用品管理でサポート



齋藤久夫 (堺プラント)
各部署での職務経験から全社的
業務フローを把握



森 成男 (南港処理センター)
ドライバー経験を活かし
警備誘導を担当



大幸グループでは、入社後3カ月間、全部署の業務を学ぶ新入社員研修、管理職による大幸未来育成会をはじめとしたセクションごとの研修、各プラントを統括する視点を育み相互活性化を図るプラント人材交換制度などを通じ、各分野の人材育成に尽力しています。また、公正採用選考人権啓発推進員の新任・基礎研修への参加等により公正公平な職場環境を促進。事故や課題の共有化によって、より安全な勤務体制と、風通しのよい環境づくり、一人ひとりの資質向上・成長を目指しています。



車輛センターで安全・確実な輸送を管理する運行管理者や、プラントにおける重機オペレーターの各種資格・免許の取得を支援するため、研修への参加費や、資格試験・免許取得に関する費用負担を実施しています。資格・免許の取得は、業務的な必要性ばかりでなく、個人の技能力を伸ばし、成長を促すため、大幸グループを挙げて推奨しています。

若年から壮年、熟年に至るすべての従業員の健康と福利厚生を推進するため、大幸グループでは健康診断(特定健診・特定保健指導)に加え、人間ドックの利用促進にも力を注いでいます。これらは、疾病・潜在疾患の早期発見、予防、適切な治療への導線となるものです。人間ドックは、従業員の高額負担抑制に向け大部分を補助し、気軽に利用できる体制を整えています。

また、働き方改革の一環として、有給休暇の取得しやすい環境づくりを促進し、有意義な休暇と休息による心身の健康増進と、生産効率の向上を目指しています。



大幸グループ全体の情報共有を目的とした情報誌を、隔月サイクルで刊行しています。掲載内容は、私たちの関わる環境事業の現況と今後の方向性、地域の情報、行政の指導や指針の紹介、関連企業の最新情報などについて。すべてのスタッフと、その家族に向けて、環境事業内容と目指すベクトルについて広報を行い、グループ・関連企業の一体化と環境意識の啓発に努めています。

共通の課題や情報を共有し、 持続可能な開発を目指す



大幸グループでは、つながりの強い企業の大同団結と、その資質向上を目指して1994年に「大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会 (KTK)」を発足しました。現在、同組合の施設利用企業やこの活動に賛同する企業など、106社(2020年12月現在)が会員として参加。その多様な力を集約して、環境問題や廃棄物業界の課題を共有し、会員の技術・知識、モチベーションの向上に取り組んでいます。2020年度は感染症予防のため、集会の多くを中止・延期しましたが、今後、感染症対策を含めた情報共有に取り組んでいきます。

活動内容



- 施設見学会
 - ・(株)富山環境整備(富山県)
- ゴルフコンペ等の懇親会
- 社会的活動等に寄与した会員企業および社員の表彰
- 地域貢献・コミュニケーション活動
(KTK 道路清掃美化キャンペーン等)
- 優良産廃処理業者の認定取得・許可申請支援
- ISO14001 認証

2018年

- 新年研修会・互礼会
 - ・[桂 米朝] 門下[桂 勢朝] 氏
- 総会・講演会
- 夏期研修会
 - ・三方よし経営の今と土壌汚染対策
(株)FINEV 光成 美紀 氏
- 施設見学会
 - ・(株)津軽バイオマスエナジー「バイオマス発電事業、発電システムによる栽培施設」(青森県)
- ゴルフコンペ等の懇親会
- 社会的活動等に寄与した 会員企業及び社員の表彰
- 地域貢献・コミュニケーション活動
(KTK 道路清掃美化キャンペーン等)
- 優良産廃処理業者の認定取得・許可申請支援
- ISO14001 認証

2019年

- 新年研修会・互礼会
 - ・奈良県明日香村 村長 森川 裕一氏 講演
 - ・テーマ「明日香村の未来戦略」
- 総会・講演会
 - ・大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科
花嶋 温子氏 講演テーマ「SDGs で生き残る」
- 夏期研修会
 - ・佐川事務所 社労士・行政書士佐川 良明氏 講演

活動内容【環境対策協議会 青年部】



2018年

- 総会
- 研修会
 - ・今から出来る事業継承と落とし穴
岩本司法書士事務所 岩本 健照氏による講演
- 施設見学会
 - ・街クリーン株式会社(沖縄県)
- ボウリング大会、ゴルフコンペ、釣り大会等の懇親会

2019年

- 総会
- 研修会
 - ・事故安全教育の各社取り組みについて
発表し、情報共有
- 施設見学会
 - ・アクアパーク松阪「下水道処理施設」(三重県)

責任意識を重視したリスク管理、 グループ目標と社会倫理の理解・実践



安全衛生、危機管理、セキュリティといった各分野において積極的にコンプライアンスに取り組み、従業員への啓蒙・教育と周知徹底に努めています。また、従業員の一人ひとりが大幸グループの目指す持続可能な方向性を理解し、守るべきルールを順守して、有効・効率的かつ適正に行動するよう指導しています。

労働安全衛生への取り組み

大幸グループの安全衛生への取り組みは、朝礼および報告・連絡・相談・確認の徹底、そして的確なマニュアルを基にした柔軟な現場対応、特に責任意識の徹底に重点を置いています。マニュアルがたとえ完成されたものであっても、それにすべてを依存するのではなく、臨機応変に対応する、体で判断することが危機管理には必要不可欠な要素であるからです。特に弊社の場合、プラント、各部署によって業務の事情や状況が異なり、各プラントだけでも取り扱う物や処理業などにより対応すべき課題は異なります。

具体的には、各プラントの処理業務に応じたそれぞれに求められる的確で即時的な危機管理体制を目指し、作業着・靴・手袋・マスク等の着用といった基本的な作業姿勢、熱中症対策として水分・塩分補給の徹底、状況に応じた管理体制を、それぞれが目的意識を持って取り組んでいます。



リスクアセスメントの実施

業務には絶えずさまざまな危険因子が潜んでいます。その危険度に応じた評価を判定し、危険因子への対応策に優先順位をつけて意識的に確認しています。例えば、日々の朝礼時にKY(危険予知)ミーティングを実施しており、その日の作業内容から危険要因を指摘し合い、危険を回避するための対策を決めてから作業に取り掛かっています。

営業活動の段階でも、危険を伴う処理の契約時には有害・危険物質の存在と状況の説明、受け入れ場所やドライバー等の条件に基づいた処理要領、危険度に応じた対応を確認しています。

また、事故発生時の各責任者の対応マニュアルについては、熟練の現場担当者が主体となって作成することになっています。

健全な経営を目指すコンプライアンスと教育

コンプライアンスは一般に法令順守と解釈されていますが、法の規定だけにとらわれ、厳密な規制のみ受容すると、企業としての発展性は損なわれる可能性があります。法の精神は守るべきものとし、単純な社内制度化でなく、組織が何をビジョンに機能しているのかを職員全体が理解して、未来につながる企業へと成長していかなければなりません。

企業活動を損なう反社会勢力に対する対応には、専従の担当者を配置して万全の態勢を取り、断固として非暴力の推進を進めています。また、グループ内の事例はもとより、ニュースの事件事例も参考として、職員への教育・啓蒙活動を実施し認識の周知徹底を図っています。特に車両運行では、ドライバーとしての責任と自覚を携え、組織の名前を刻んだ車両を運行しているということの重要性、状況に応じた適切な対応を行っています。

情報セキュリティ管理

情報通信の進化によって、情報管理の重要性が高まっています。情報漏えいに関しては、組織としても自己防衛の的確な形を作っていくことが必要となっています。個人情報保護法や法令による規制はあるものの、やはり職員全員が自覚と認識をもって大切な情報を保護しなければなりません。大幸グループは情報の管理をブロックごとに行い、その責任体系を明確にするとともに、必要な情報の共有という問題に取り組んでいます。

環境負荷に対する活動の目標と実績

地球環境の将来を考え、その基盤となる事業を推進する企業として、事業推進で生じるさまざまな環境負荷に対しては、全社、あるいは事業所、部署ごとの課題を抽出し、年度ごとの取り組みを進めています。



2020年目標とその成果

部門	目的	目標値	具体的実施方法	評価
南港処理センター	作業員の設備理解度UP	社外研修の参加	設備に合わせた社内研修の実施	☆☆
	河川水使用量削減	前年同月比1%削減	構内散水の節約	☆☆☆
	無事故無災害	1年間無事故無災害	毎月事故件数をゼロにする	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	法規制の順守	排出基準値クリアー	pH監視強化	☆☆☆
	法規制の順守	受入基準値クリアー	定期分析による監視	☆☆☆
泉プラント	薬品使用量削減	前年同月比1%削減	長時間養成	☆☆
	品質確保	社内基準の順守	内部・外部分析	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	法規制の順守	搬入基準値クリアー	品質検査の実施	☆☆☆
堺プラント	再生品の品質確保	社内基準の順守	内部・外部分析	☆☆☆
	重機の延命化	重機の故障をゼロにする	定期清掃、点検の強化	☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
本社	電力使用量削減	前年同月比2%削減	冷暖房温度設定管理	☆☆
	電子マニフェストの推進	紙マニフェストから電子化へ移行	顧客との交渉	☆☆
運輸部	車輛の延命化	車輛の故障をゼロにする	定期清掃、点検の強化	☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	安全安定操業の確保	無事故無災害	作業指示書による順守事項の徹底	☆☆☆
	顧客サービスの充実	優良処理業者の認定	許可更新時に申請	☆☆☆

★目標未達成 ☆☆☆目標ほぼ達成 ☆☆☆目標達成

環境データ 中間処理場排出汚泥の化学測定結果

泉プラント

項目	単位	産業廃棄物法基準	最終処分場受入基準	測定値		
				最大値	最低値	頻度
カドミウム	mg/ℓ	0.09	0.09	<0.01	<0.01	1回/月
鉛	mg/ℓ	0.3	0.3	<0.03	<0.01	1回/月
6価クロム	mg/ℓ	1.5	0.5	<0.05	<0.05	1回/月
砒素	mg/ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
セレン	mg/ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
熱灼減量	%	—	15	9.1	2.5	1回/月

南港処理センター

項目	単位	産業廃棄物法基準	最終処分場受入基準	測定値		
				最大値	最低値	頻度
カドミウム	mg/ℓ	0.09	0.09	<0.01	<0.01	1回/月
鉛	mg/ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
6価クロム	mg/ℓ	1.5	0.5	<0.05	<0.05	1回/月
砒素	mg/ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
セレン	mg/ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
熱灼減量	%	—	15	8.9	5.7	1回/月

物品のリサイクル活動

私たちは、資源の新たな可能性と価値の発見に取り組む組織として、身近なすべてのものを注意深く見つめ、再利用を図っています。

使用済み切手も、キロ単位の重さになると換金され寄付に用いることができます。回収された使用済み切手は、ボランティア組織から切手商の手を経て、切手コレクターに渡ります。このことで新たな価値を生み出し、換金・寄付によって困窮する世界の人々の役に立ちます。

事務用品や衛生用品の梱包材など、事業活動で発生するダンボールも環境資源と考え、2014年からリサイクル活動をスタートしました。2020年(1月~12月)は250kgのダンボールを再資源化。備品・消耗品の荷ほどこき後、ダンボールを所定の位置に運ぶという「ひと手間」の慣習化により、従業員の環境意識が高まりを見せています。



揺るぎない環境理念に根ざして

2020年（令和2年）度の大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合の環境方針が示され、地球環境の保全・循環型社会構築を目指して、事業の主軸を据え組織強化を図り、顧客サービスをさらに充実することが改めて確認されました。

年度方針・環境方針

社長方針

「情熱」

- 一、 目標に向け気持ちが燃立つ情熱を傾ける
- 一、 製造業としての技術開発に情熱を燃やす
- 一、 全社員が情熱ある明るい職場環境の達成

環境方針

私たちは、地球の環境保全、持続可能な社会の実現が人類共通の最重要課題であることを認識し、廃棄物の適正処理および、リサイクル技術及びリサイクルシステムの研究開発に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。

ISOスローガン 「考えよう 一人ひとりができるエコ」

1 安全・安定操業の確保

- ① 教育、訓練を充実し個々のレベルアップ
 - ・ 社外研修会等へ積極的に参加しレベルアップを図る。
- ② 事故、トラブルの原因を徹底究明し再発防止
 - ・ 事故事例検討会を実施し類似事故の再発を防止する。

2 組織の強化と業績改善の推進

- ① 法令順守と情報公開
 - ・ ホームページ等での情報公開を推進し企業イメージのアップを図る。
 - ・ 電子マニフェスト化の推進等により法令順守意識の高揚を図る。
- ② 業績改善の推進
 - ・ 業績改善提案制度を推進し、全員参加で業績改善に取り組む。
 - ・ ISO活動を継続し、業務の標準化と文書管理の簡素化を推進する。
 - ・ リサイクル製品の品質向上を図り、顧客満足向上に努める。

3 「地球を大切に」を合言葉に、循環型社会の構築を推進

- ① 車両・重機の燃料効率の向上
 - ・ エコドライブの実践 — 急発進、急加速の防止、アイドリングストップに努める。
- ② 「もったいない運動」の推進
 - ・ 紙使用削減、電力使用削減に努める。
- ③ 地域との共存共栄の推進
 - ・ 道路美化運動等に積極的に参加し、地域貢献に努める。

4 顧客サービスの充実

- ① 顧客ニーズに対応した処理システムの開発
 - ・ コスト削減等の顧客ニーズに即応したリサイクルシステムの開発を推進する。

環境マネジメント・認証取得

ISO 取得状況

大幸グループは、総合的な企業風土、社員個人の社会的貢献意欲を含めたあらゆる側面において、「地球・産業・暮らしの調和」を目指しています。こうした指針により、業界に先駆けてISO9001、ISO14001の認証を取得し、環境マネジメントの社内体制を整備。リデュース・リユース・リサイクルの徹底を図るとともに、地球環境保全に役立つ技術と製品の開発に努めています。

内部環境監査

ISO9001、ISO14001 取得を早期に果たした大幸グループ各事業所では、環境マネジメントシステムのPDCAサイクルに基づき、内部監査を実施。環境実績の組織的・継続的な改善システム、実績向上の推移、法規制順守などに関する審査を実施しています。

外部環境監査

内部環境監査に加え、環境マネジメントシステムの有効性を確認するため、認証機関のオリオン・レジストラージャパンによる監査を受けています。例年、審査結果をもとに指摘事項の改善を実施し、環境マネジメントシステムの有効かつ適正な運用によって認証登録を更新しています。

第三者意見

『資源リサイクルの新たな時代を切り拓く』 大幸グループの熱い決意に期待いたします。

2020 大幸グループ CSR 報告書では、資源の「創り手」として処理業から製造業へ転換するなかで、製造業としての責任を果たし、持続可能な社会を構築する具体的な内容が書かれています。また、自然災害と感染症から生命を守る対策と、経済活動維持に素早く対応されていることが読み取れます。そして、前年に次いで 2020CSR 報告書でも、持続可能な開発のための教育（ESD）を広げるため CSR 報告書を教材として活用する試みが継続されていることが理解できます。

具体的には、従業員の雇用を守り、地域・環境を守るグループを挙げての感染予防対策として、本社、車輛センター、各プラントと細部にわたって入念に対策を施されています。また、新たな試みである学生・社会人オンライン研修などに積極的に参加されています。2019年12月に完成したBCP対策の津波避難ビルを兼ねた車輛センターでは、専門家を招聘し車両移動訓練や反省会などが実施されています。

そして、CSR活動として、三密を避けた市民参加の寄せ植え教室とオンライン感染予防講習会などの文化活動、命を守る活動のバランスが図られています。一昨年実施した新北島中学校生徒の職場体験で作った光る泥だんごが、マレーシアの子供たちにプレゼントされ、感謝状と添え書きが渡されました。コロナ禍のなかで、行ったこともない国同士の子供たちが相手を思いやる、小さな交流が生まれたことは、まさに生きたESDの実践といえます。

SDGs だけにとらわれず、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）を俯瞰した観点で、生命を守る対策と経済活動維持を基軸とし、地域に密着した活動の継続もなされており、今後のさらなる取り組みを期待します。



京都大学 大学院地球環境学堂
教授 勝見 武

CSR 報告書を SDGs4.7 の教材として活用する教育プログラム (ESD)



教育プログラム (ESD) の流れ

学習を始める前に、解説書からSDGs17目標と169ターゲットの内容を理解します。できれば、英文で理解しましょう。また、CSR(企業の社会的責任)、SDGs(エス・ディー・ジーズ)、国連責任銀行原則(PRB)、ESG 経営、CSV(共通価値の創造)などの英語略キーワードの意味も理解します。

「CSR 報告書」と「専用の記入用紙」を準備します。これら資料は、大幸グループのホームページからダウンロードできます。次に、「CSR報告書」のトップメッセージから、会社全体、業界全体、長期的な視座を読み取ります。そして、各ページや、各項目を環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) に分類し、E・S・Gの観点でどのように書かれているかをチェックします。「SDGs17 目標 & 169 ターゲット解説書」を読んで、CSR 報告書の各ページや、各項目に書かれている大項目と中項目を169ターゲットに紐づけします。最後に、問1から問3の回答を記入します。

この教育プログラム (ESD) は、SDGs17 目標 & 169 ターゲットを基に、若い学習者が今発生している環境問題に興味を持ち、究明する心に火をともし、明確な答えがないSDGsなどの課題解決に挑戦する意欲を育むことが狙いです。



大幸 QR コード



[CSR 報告書]



[SDGs17 目標 & 169 ターゲット個別解説書]

- 問 1、あなたが取り組みたいと思う持続可能な開発目標 (SDGs) は、具体的にどのようなことですか？
- 問 2、あなたが取り組みたい CSR(社会貢献) 活動は、具体的にどのようなことですか？
- 問 3、環境問題などの課題を解決するために、なにかアイデア (CSV) があれば述べてください。

問 1～問 2 のアドバイス：

「持続可能」とは、例えば、プラス側とマイナス側があるサイコロを、毎日プラス側の賽の目 (さいのめ) が出るように回し続けることです。「貢献」とは、例えば、裏表 (うらおもて) があるコインを、常に表 (ポジティブ) 向きにして相手に与え続けることです。

大幸工業株式会社

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1-18-6
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 流動化処理土の販売
一般貨物自動車運送事業 特定旅客自動車運送事業
土木、建築工事の施工及び請負 各種清掃業

大阪ベントナイト事業協同組合

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004

汚泥・廃酸・廃アルカリの中間処理、流動化処理
組合員の取扱う汚泥の共同処理
組合事業の知識普及をはかるための教育・情報提供

堺大幸工業有限会社

〒590-0063 大阪府堺市堺区中安井町3-4-10
TEL 072-238-3059

建設汚泥の収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

大幸工業株式会社 泉佐野

〒598-0007 大阪府泉佐野市上町2丁目2-11
光ビル2階
TEL 072-429-9147 FAX 072-429-9146

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 一般貨物自動車運送事業
ビルメンテナンス業

北部大幸工業有限会社

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-5-13
TEL 06-6226-0882

建設汚泥の収集運搬土木、建築工事の施工及び請負

有限会社大幸リース

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0005 FAX 06-6686-0006

機械のリース、運搬車両のリース



大幸工業株式会社

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目18番6号
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

大阪ベントナイト事業協同組合

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004



